

2023 年度事業方針

新型コロナウイルス感染症は収束の見通しが立たない状況が続いているが、行動制限は緩やかになり、コロナ禍で急激に落ち込んだ経済もようやく回復の兆しが見えてきた。本年度は感染リスクの低下に加え、適度な物価上昇とそれに伴う賃金のベースアップによって個人消費が回復するというベストシナリオが期待されるが、他方でウクライナ侵攻の長期化や世界インフレなど不確定要因も存し予測が困難な状況にある。

一方、競輪界では感染拡大防止と競輪開催の両立を図り、ミッドナイトやモーニング競輪等の拡充策によりお客様が一日を通して競輪を楽しめる環境を整えてきたことで、2022年度の売上は20年ぶりに大台である1兆円越えが確実視される。しかしながら、この拡充策の効果はいつまでも続くものではなく、また、売上は伸び続けているもののこれも永続的なものとは考えづらい。社会は多様化し同様に競輪を取り巻く環境も常に変化しており、今後も競輪がお客様から支持される存在であるためには、将来を見据えた基本方針をしっかりと打ち出し実行していくとともに、お客様の動向を更に分析し、様々な問題の解決や新規施策のチャレンジを関係団体と一丸となって積極的に展開していく。

本会は、本年度も競輪の持続的発展に向けた成長戦略に出来る限り協力していくとともに、会自らも変化に対応できる強い足腰を鍛え、諸問題に対し柔軟にかつスピード感をもって対応できる組織を目指し尽力する。以上のような現状認識と取り組みのもと、着実な事業の推進に全力を傾注する。

選手の出場については、月最低2本のあっせんを確保することを命題とし、あっせん間隔の確保や集中開催による影響抑制を図り、適正な出場条件の確保に努める。直前欠場及び中途欠場については、お客様及び競輪開催に多大な影響を齎すことから、更なる欠場防止策の構築に向け検討を行う。落車に起因する事故については、会員に対し適正走行の維持励行を徹底するとともに、その撲滅に向け効果的な防止策を検討する。ガールズケイリンについては、選手の上昇志向を喚起するため本年度からレース体系が再構築されるが、女子選手が憧れの存在となりプロスポーツ競技として広く認知されることを目指す。退職給付・競輪選手年金の給付継続のための財源確保については、本会が両事業を譲り受けた経緯を踏まえつつ、JKAに対し引き続き支援助成を要請する。これら諸事業の推進状況については、競輪界の動向とともに、諸会議・研修会の場や情報配信により迅速かつ的確に会員に伝達する。

以上が本年度の事業概要であるが、組織の運営には会員一人一人の力が礎となることから、より一層の結束を持って事業執行にあたっていく所存である。